

各位

三重県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予報第7号

	ページ
1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 気象のデータ	9
6. おしらせ	11

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネ(注1)では、イネミズゾウムシの発生量は**やや少**と予想されます。

コムギ(注2)では、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。

注1:4月中旬までに移植する圃場を対象。

注2:11月下旬までに播種した圃場を対象。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病(温州みかん、中晩柑)、ミカンハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病の発生量は**平年並**と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや多**と予想されます。今後の発生状況に注意し、早期防除に務めてください。チャノホソガの発生時期は**早**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病の発生量は**やや多**と予想されます。今後の発生状況に注意し、早期防除につとめてください。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。うどんこ病の発生量は**少**と予想されます。


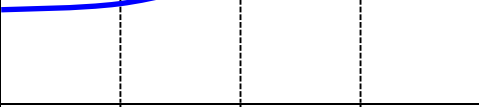
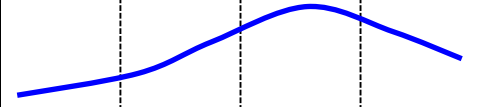
キャベツでは、菌核病の発生量は**平年並**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月		4月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	イネミズゾウムシ	—	やや少	小	低				成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。
	赤かび病	—	平年並	小	普通				出穂期 開花期 感染 発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) 圃場ごとに出穂及び開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。
	そうか病	—	平年並	小	普通	葉枝の発病			発芽	<ul style="list-style-type: none"> 1) 昨年に果実での発病がみられた圃場では、発芽期防除を実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑平年並	温州小 中晩柑小	温州低 中晩柑普通				発病密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が認められる中晩柑圃場では、発芽前防除を実施してください。 2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、圃場より持ち出してください。 3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布による薬害に注意してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通				成ダニ密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当たり1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場や現在発生が認められる圃場では、今後の増加に注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除して圃場外で処分してください。 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。 			
	赤星病	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。 			
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> 2月下旬～3月上旬に産卵します。 裾葉裏に生息しているので、薬剤が付着するよう丁寧に散布してください。 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は年1回に止めてください。 			
	チャノホソガ	早	—	—	—		<ol style="list-style-type: none"> 新芽の葉裏に産卵します。 萌芽は例年4月上旬です。萌芽後は新芽への産卵や幼虫発生に注意してください。 			
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> 病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。 20℃前後の温度と多湿条件で発生が多くなります。ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。 発病部位は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し適切に処分してください。 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						3月	4月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
イチゴ	うどんこ病	—	少	小	低	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理に努めてください。 2) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハダニ類	—	平年並	中	普通	ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬液がかかりやすくなるよう下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。また、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用してください。 3) 薬剤散布では、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して薬剤の選択を行ってください。
キャベツ	菌核病	—	平年並	小	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病株は伝染源となるため、菌核が形成される前に抜き取って圃場外へ持ち出し、処分してください。 2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。 3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行ってください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並みの予想 (+)</p> <p>2) 県予察灯(平成30年7月第1半旬～9月第2半旬 松阪市水田位置)では、誘殺数は99頭(平年165.3頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(平成30年8月)では、発生圃場率1.3%(平年11.0%)と少、払い落とし虫数0.02頭(平年0.21頭)と少 (-)</p> <p>考察: 昨年の予察灯の誘殺数と巡回調査の結果から、越冬虫数は少ないと考えますが、今後の気象条件を加味し、予想発生量はやや少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並みの予想 (+)</p> <p>2) 農業研究所作況試験田(11月14日播種・あやひかり)によると、葉齢の進展は平年並 (±)</p> <p>3) 生育予測システム(11月10日播種・あやひかり・松阪市嬉野3月11日現在)によると、予想出穂期は4月4日頃(平年4月12日)と早 (-)</p> <p>考察: 今後の気象条件および現在の生育状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場)では、昨年7月上旬の春葉発病率84.0%(平年75.4%)と平年並 (±)</p> <p>考察: 県予察圃の状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場、中晩柑、2月15日調査)では、越冬病斑の発病率25.5%(平年29.1%)とやや少の傾向、発病度4.8(平年6.5)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、温州みかん旧葉での発病率0%(平年0.1%)と平年並に少、発病度0(平年0.02)と平年並に少、中晩柑類旧葉での発病率8.3%(平年8.2%)と平年並、発病度3.5(平年3.7)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 温州みかん、中晩柑類では、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 県予察圃(3月上旬)では、寄生頭数は無防除区 81.1 頭/葉(平年 21.9 頭/葉)と多、慣行防除区 0 頭/葉(平年 0.8 頭/葉)とやや少 (±) 3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生頭数 0.15 頭/葉(平年 0.14 頭/葉)と平年並、寄生葉率 3.4%(平年 4.4%)と平年並の傾向 (±) 4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±) <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 巡回調査圃場では、昨年9月の発病葉率 0.3%(平年 1.4%)とやや少の傾向 (-) 3) 一般圃場では、昨年10月の発生量はやや少 (-) <p>考察: 昨年秋の調査結果はやや少であるが、今後の気象条件等を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 巡回調査圃場では、昨年6月の発病葉率 0%(平年 0.3%)と平年並に少の傾向 (±) 3) 一般圃場では昨年5月の発生量は少 (-) <p>考察: 昨年の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並みの予想 (+) 2) 県予察圃(3月上旬)では、寄生葉率 1.0%(平年 5.1%)と平年並の傾向、寄生頭数 0.03 頭/葉(平年 0.12 頭/葉)と平年並の傾向、産卵確認は2月15日 (±) 3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発生圃場率 50.0%(平年 34.3%)と多、寄生葉率 3.2%(平年 1.5%)と多、寄生頭数 0.15 頭/葉(平年 0.04 頭/葉)と多 (+) 4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察: 今後の気象条件、県予察圃、巡回調査圃場、一般圃場の状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノホソガ	早	—	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 県予察圃フェロモントラップでは、初飛来は3月1日(平年の初飛来は3月19日) (発生時期-) 2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、成虫は未確認 (発生時期±) <p>考察: フェロモントラップ調査結果を重視して予想発生時期は早と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率4.7%(平年3.0%)と多、発病果率1.6%(平年0.7%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：一般圃場での状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられるが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	うどんこ病	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(平年0.3%)とやや少、発病果率0%(平年0.04%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～少(概して少) (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生株率6.2%(平年15.4%)と少、発生程度2.7%(平年7.2%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少～多(概して平年並) (±)</p> <p>考察：一般圃場での状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月14日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0.3%(平年1.0%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：一般圃場での状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

				平年値 ↓		
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 31 年 3 月 14 日 名古屋地方気象台発表)

高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。暖かい空気に覆われやすく、向こう 1 か月の気温は高い見込みですが、期間のはじめは気温の変動が大きいでしょう。

東海地方週間天気予報 (平成 31 年 3 月 18 日 10 時 32 分名古屋地方気象台発表)

予報期間 3 月 19 日～3 月 25 日

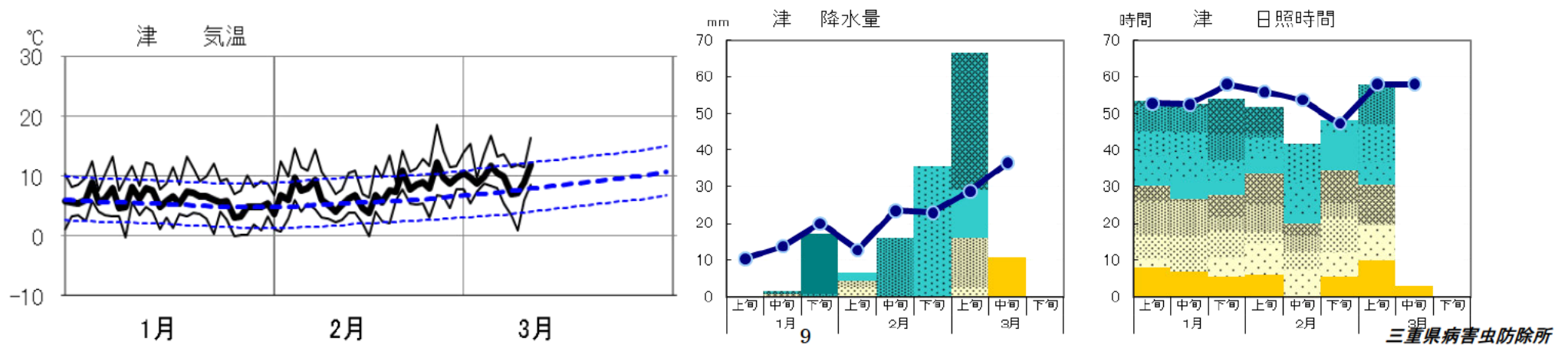
向こう一週間は、日本付近を気圧の谷や低気圧が通過するため曇る日が多く、21 日頃は雨が降る見込みです。

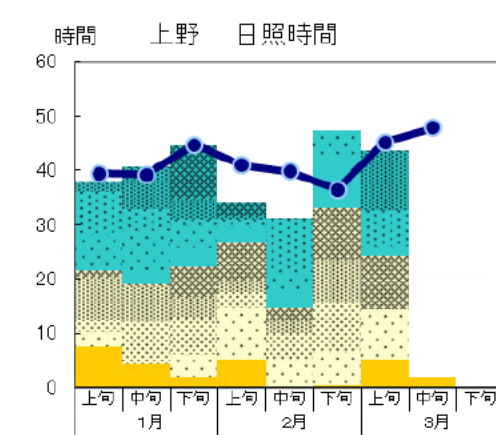
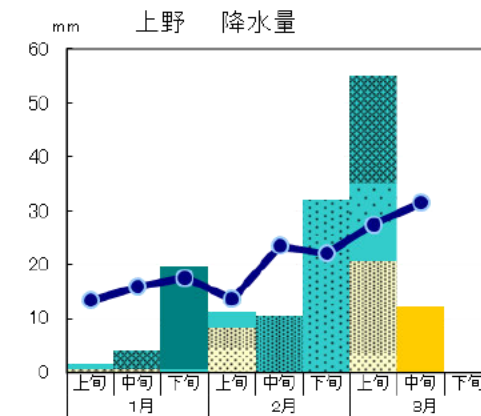
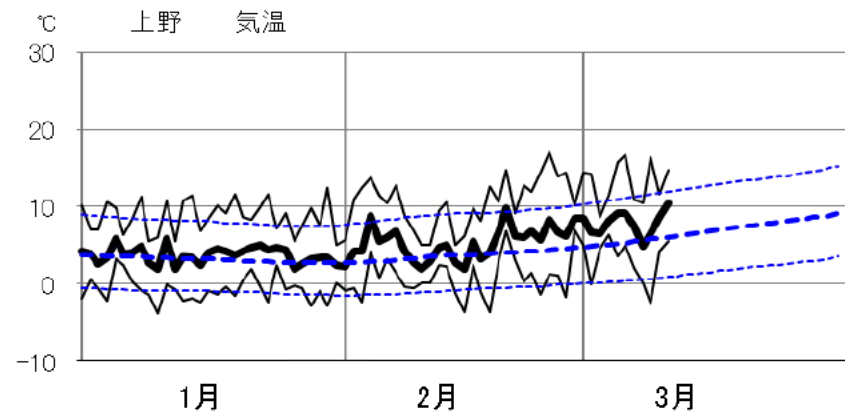
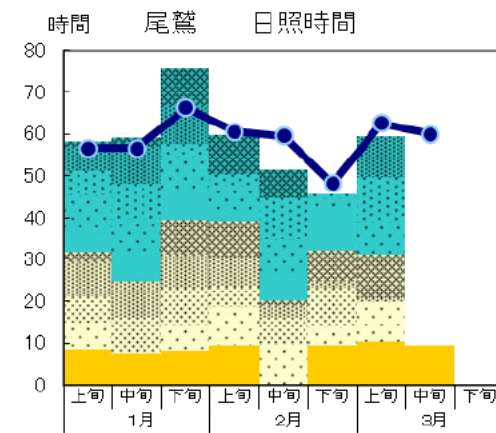
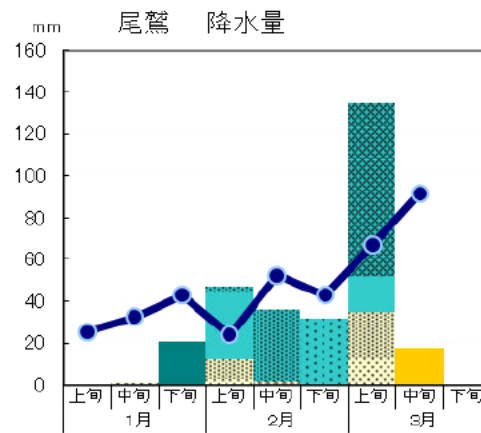
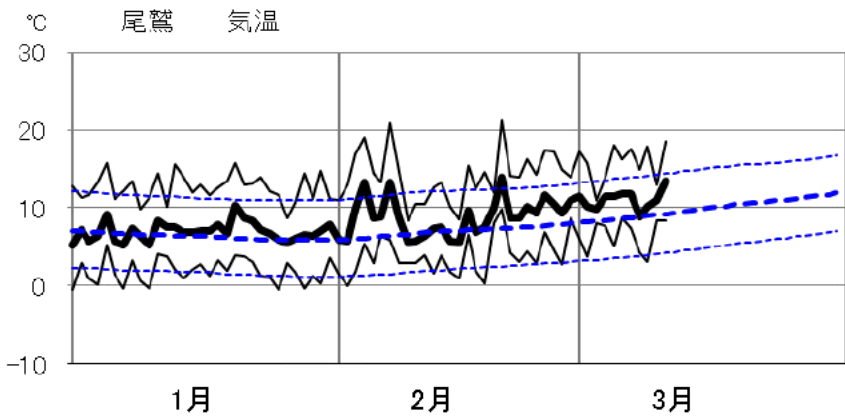
最高気温と最低気温はともに、期間の前半は平年より高く、後半は平年並となるでしょう。

降水量は、平年並の見込みです。

1 週目 3 月 16 日～ 22 日	短い周期で日本付近を低気圧が通過するため、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。また、期間の前半は気温の低い日がありますが、後半にはかなり高くなる日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.4 日・ 4.2 日
2 週目 3 月 23 日～ 29 日	高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 2.5 日・ 4.0 日
3～4 週目 3 月 30 日～ 4 月 12 日	高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 4.4 日・ 8.4 日

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3 月 11 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - 平年平均
 - 平年最高
 - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 第1回 4月19日(木)(済み) | 第2回 5月24日(水)(済み) |
| 第3回 6月21日(木)(済み) | 第4回 7月19日(木)(済み) |
| 第5回 8月23日(木)(済み) | 第6回 10月25日(木)(済み) |
| 第7回 3月20日(水)(今回) | |

3) 利用方法 **NEW**

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000625689.pdf>

5) メール配信サービス **NEW**

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産園芸課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>